

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「安全保障関連3文書について」 支部会員 中尾 剛久

防衛力整備計画
具体的な防衛力整備計画については、スコープである10年間のうち、最初の5年間の最優先課題として現有装備品を最大限有効に活用するための可動率向上、弾薬・燃料の確保、主要防衛施設強化対策に注力する方針とのことであり、極めて現実的な選択であると考ええる。

一方で、5年間で43兆円という巨額の予算は、これまでの中期防衛力整備計画と比較して約1.6倍の伸びとなる。しかも、抜本的な防衛力の強化に向けて、旧正面装備など一部の分野に優先的に注力されるのではなく、防衛力の持続性・強靱性を向上させるため、旧後方も含めたほぼすべての分野に多額の予算が投入されることになっている。ここに一抹の不安を覚えてしまう。

予算が付いたからと言って、自動的に装備品や業務の調達ができるわけではない。それぞれの調達案件ごとに、簡単に述べても、調達要求を起す↓受付、審査↓見積徴取↓予定価格の算定↓(公告)↓入札↓契約↓(履行中の)監督・検査↓支払

というシーケンスを辿る。国費の執行であるから、この間多くの関係先が慎重な手続きを踏むため、時間もかかる。ところがその業務に携わる人的リソースをはじめとする態勢は防衛関係費が縮小されていた時代とほとんど変わらず、逆に実施すべき手続きは不祥事防止のために増えているのが現状である。現役時代、予算執行に携わる隊員が夜を日に継

いで、献身的に作業する姿を見てきた。誠に頭の下がる思いだった。当時の予算規模でさえ、それだけの努力や労力を掛けなければ適正な予算執行・調達業務は実施できなかったものである。今回の防衛力整備計画の規模の予算執行を現状の態勢のまま受けた場合、想像を絶する負荷が関係部隊等にかかることは想像に難くない。これは早急に手当てすべき事項であると思う。退職隊員の活用などの手段を駆使し、適正な予算執行が可能な態勢の構築を図るべきと考える。

まとめ

以上、安全保障関連3文書をナメ読みした結果ではあるが、感じたことを認めてみた。改めて感じるのは、国家安全保障戦略に「本戦略の内容と実施について国民の理解と協力を得て、国民が我が国の安全保障政策に自発的かつ主体的に参画できる環境を政府が整えることが不可欠である。」との記述があるとおり、国民全体の安全保障問題への理解・関心醸成の必要性である。

どこの国も安全保障や防衛には可能な限りのリソースを傾注し、その全うを図っている。

しかしながら、必要にして十分なリソースを提供できる国はほとんどないのが実情だろう。我が国においても同様であり、特に予算と人的リソースの獲得には大変な苦勞をしなければならぬ。

今回の3文書の改定において、NATO基準に沿って、国防関係支出の総額をGDPの2%を目指すという方針が示され、防衛力整備計画で

は最初の5年間分ではあるが具体的な予算額の目安も示された。これにより、予算の問題は相当程度軽減されることになるだろう。残る主要な問題は、やはり人的リソースの確保であり、これを除いては防衛力の抜本的強化は覚束ない。

防衛省・自衛隊の募集が芳しくないことは周知の事実であり、災害派遣活動等により国民の自衛隊に対する信頼感が上昇しても、募集環境が大きく改善することはなかった。一方で、今後の防衛省・自衛隊は、陸

海空という伝統的な領域の戦いに加えて宇宙、サイバー、電磁波に代表されるような新たな領域、並びにそれらを横断する複雑な戦いへの対応を求められている。前項でも述べたとおり、後方支援関係の人員にしても、今以上の削減余地はない。益々、質においても、量においても人材の確保は喫緊の課題となっている。

現在の国民の一般的な理解は、安全保障(防衛)は役所としての防衛省・自衛隊の所管であり、それ以上でも以下でもないといったものではないだろうか。今回のロシアのウクライナ侵略において、諸外国がウクライナを支援する理由は、ウクライナ国民自身が全力で戦う意思を示し、実際に必死で戦っているからに他ならない。仮に我が国に同様のことが生じた場合も、諸外国の支持と支援を得るためには日本国民自らの防衛意思の表明と具体的な行動を示す

必要があるだろう。そのためには、根本的に国民全体の安全保障に対する意識を深める施策を講じ、その流れの中で防衛省・自衛隊の人材確保

を図っていく必要があると考える。今回の3文書の記述には含まれていないが、国民の安全保障に対する理解を促進するためには、学校教育のレベルからの施策の必要性を感じている。(完)

『パプアニューギニアからの便り』
令和4年度・東部ニューギニア戦没者遺骨収集現地調査(第4次)に参加して(第一回)

支部理事役 荻原 洋聡

【序に代えて】
3月6日から15日にかけての10日間、厚労省・戦没者遺骨収集現地調査に隊友会卒の1人として、パプアニューギニアでの試掘調査に従事しました。この稿を進めている『今の瞬間』は、3月19日の未明です。1月16日に派遣が決定してから、僅か2か月のうちに、貴重な体験をさせていただきました。

私の人生を振り返る時、自分にとってそれまでの価値観がひっくり返る、いわゆる『コペルニクス的転回』は2度あったと感じていました。最初は、今から14年前、ソマリア沖海賊対処行動活動拠点整備にあたり、その事前調整チームとして4か月勤務した「ドイツ共和国」での体験。2回目は、海自八戸航空基地(機動施設隊司令)で体験した東日本大震災でした。「2度あることは3度ある!？」とすれば、今回のパプアニューギニアでの体験は、まさに3回目の強烈な『コペ転』となり、帰国直後の私は「ピンタ3連発」を撃たれ続けているような心境にあります。

3月15日早朝@0545i、羽田空港に到着帰国した時の帰国第1報告メールは以下のとおりです。

【以下、引用】

『3月15日早朝@0545i、無事に羽田空港に到着帰国しました。10日間の貴重な機会を与えていただき、真にありがとうございます。』

現時点の正直な気持ちとしては「たまらなく切ない」です。

ひとつは、一つ柱もお連れできなかったこと、もうひとつは、今回滞在・訪問したブレンディ村の子どもたちの健気さです。今回の現地での試掘は、2日のみの計画のところ、初日の埋葬地試掘での御遺骨の発掘はありませんでした。2日目朝は強烈なスクールのため作業は取り止めとなったので、初日のみの試掘となり、残念ながら御遺骨発掘にはいたりませんでした。

そこで2日目は、ブレンディ村での聞き取りに専念した結果、新たに知り得た情報に基づいて、当該地を踏査確認し、今まで知られていなかった隣村のマウル村で幾つかの新事実があることが判明しました。次回の現地確認調査が円滑に行くように必要な段取り・調整に充てました。今後の計画推進に繋がると思います。余りにも沢山の体験となり、改めて詳細報告させていただきます。と想います。

15日の帰国便（JL036）は、0555i羽田着（予定）のフライトで、左側の窓側席を確保しておりましたから、羽田着陸に際してはおそらく私の両肩に居られるであろう英霊に朝方の陽光を浴びる富士山を御覧いただくことができました。着陸して入国手続きに向かうところで日の出となりました。その後、江戸屋敷（弊社東京事務所）で荷物を置き、身支度を整えてから、靖国神社での本殿参拝に赴きました。

英霊におかれましては、そのまま靖国神社で留まられるか、それから故郷へ御還りになるかはそれぞれに委ねました（私の気持ちの上で）。

引き続き、今回の派遣窓口である隊友会本部（市ヶ谷の防衛省内）の山本康正・公益課長に帰国報告等を行うことができました。

しかしながら、ポートモレスビーを離陸して、シンガポールへ（6時間）、3時間の乗り継ぎを経て、シンガポールから羽田へ（6時間）、24時間後には靖国神社で正殿参拝している自分が居て、その一方で、「ジャワは天国、ビルマは地獄、死んでも帰られぬニューギニア」と謂われた現地で眼の当たりにした現実のギャップに、改めて胸をえぐられるような切ない想いを深めています。

私にとって、① デイブチでの体験、② 東日本大震災の体験が人生上の2大・コペルニクスの転回の体験だと思っています。しかし、2度あることは3度・・・と謂われるように、今回のパプアニューギニアでの体験は、或る程度予想・覚悟はしていましたが、更にそれを遥かに超えた③第3のコペルニクスの転回となりました。第1（デイブチ体験）と第2（東日本大震災体験）の往復ビンタに加えての3発目（PNG体験）の『精神的3連打ビンタ』を食らい続けているような気がしています。

それは、『人にとつての幸せとは、いったいどのようなものなのか？何ものものなのか？？？』という、素朴ではあるけれど、終わりのない問いかけです。

【引用終り】

幾分、冒頭と重複しましたが、上記でも伺い知れるように、僅か2か月間の体験で劇的に変化化した心情変化の事実・記録を追

いながら、以後複数回に分けて、準備段階から帰国後までの時系列「パプアニューギニアからの便り」としてお伝えしたいと考えております。

次号へつづく

志

支部理事役 鼓 達也

自身に信念や信条など志があるか？他者の意見に惑わされずに自己決定できるか？

新興宗教やオカルトじみた団体が多数存在している。地下鉄サリン事件の実行者はいわゆるワルではなく高学歴者や中流家庭以上の者であり特殊な人間ではない。宗教にのめり込む方は家庭崩壊や借金をいとわず、自身の行動基準が信仰中心となり視野が狭くなっている印象だ（偏見かもしれない）。

筆者は特に信仰はなく、前述だけであると宗教を批判しているように思われるかもしれない。宗教には教育・心の安寧や所属の欲求を満たす役割もある。日本人は個人の考えよりも集団意識が強く、集団に属したい欲求が強いと言われる。諸説あるが集団主義とされるため集団に所属し個人よりも集団の価値基準での行動に陥りやすいというリスクがあるとされる。

通常、家族・会社・学校・地域など何らかの集団に属しているはず。しかし、自己効力感が低い方や慣れない土地、在宅ワークが中心の単身者などは孤独感が強くなり、繋がりがや承認欲求が強くなってしまう可能性がある。

問題となるのは自己決定出来ない状態に陥ることだ。教祖・社長・上司などが言っていたからと長いものに巻かれ同調して本人の考えがなくなる状態が危険で

ある。集団には同調圧力が多少働く、それでも自分の信条に基づき自己決定して同調することは問題ないが、自分の志がない状態で同調することは良くない。企業においても言われたことだけでできる人より、自身で進んで仕事をする人の方が好まれる（業種にもよるのかもしれない）。余計なものに惑わされず、自身で道を切り開く力をつけるには自身の価値観や考え方など志を持ち自立するしかない。コロナや災害など様々な理由で孤独や将来への不安が増す状況下でありオカルトなど根拠のないものに惑わされず自己決定出来るよう自身の志を持つことが大切だ。

新入会員のお知らせ（敬称略）

正会員

- ・高橋友行
元陸上自衛隊

支部会員の計報

謹んでご冥福をお祈り致します

- 故 石橋 康弘 氏（茅ヶ崎市）
令和5年1月28日 ご逝去
- 故 河合 恒二 氏（藤沢市）
令和5年3月11日 ご逝去

「支部の予定」

- ・04/01（土）
第1回支部理事役会
- ・04/08（土）
総会・防衛講演会
- ・04/21（金）
4月隊友紙発送

編集後記

今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。